

## 第8回 多職種勉強会

平成30年3月9日(金)開催

『やっぱり家が一番！

～ときどき入院、ほぼ在宅～』

松阪市では、介護と医療に関わる様々な職種の方たちが顔の見える関係を深め、地域包括ケアを推進していこうと、平成26年より勉強会を開催しています。

8回目の今回は、事例を通して在宅療養のあり方について考えていただく勉強会を開催したところ、在宅での医療・介護に関わる専門職176名が参加されました。

### 【事例】「がん終末期で入退院後、在宅での生活を希望された独居高齢者（男性）」

松阪社協松阪支所 訪問介護事業所 訪問介護員 迫間 栄子氏  
松阪地区医師会 居宅介護支援事業所 介護支援専門員 高山 なおみ氏  
松阪市民病院 訪問看護ステーション 看護師長 市川 千恵子氏  
おひさま在宅クリニック 院長 野田 知宏氏

事例を担当された専門職複数名からの発表の後、以下のテーマでグループワークを実施しました。

- ①話題提供内容や「在宅医療」・「退院時カンファレンス」についての感想
- ②かかりつけ医(ホームドクター)をもたない人、かかりつけが総合病院のみである人が、在宅医療をスムーズに受けられるようにするために、自分たちでできること

今回は、前半に事例に関わった複数の職種から、それぞれの立場でどのように療養者と関わってきたかを表していただきました。また、日ごろ在宅診療されている医師が担当されたケースによると、自宅で看取りをされたご家庭の6割強が訪問看護を利用されていたということで、とても興味深いデータも紹介していただきました。

後半のグループワークでは、現場ならではの課題や悩みごとを話し合ったり、ふだん自分が心がけていることを述べたり、参加者同士で労いや励ましの言葉をかけ合うなど、どのグルー



プでも盛り上がりが見られました。以下に内容の一例をご紹介します。

- ・独居世帯で、緊急時に入室できるようにするためには、外部の誰かが鍵を持っていないといけないが、親族が近隣に居ない場合、誰が持っているのが適切か。
- ・痰吸引や食事(嚥下困難や低栄養など)に関する課題は多い。指導や助言に専門職が関わる意義は大きい
- ・「退院します。ではよろしく。」では不安が残る。カンファレンスにより連携を取ることで専門職も不安が軽減される

最後に、アンケートで「多職種との連携で心がけていること」をご記入いただきましたので、その一部をご紹介します第8回多職種勉強会の報告とさせていただきます。



遠慮せずに電話をかけて  
疑問点や方針を明確にする  
(医師)

訪問した場合、連絡ノート  
の活用は必要不可欠  
(歯科衛生士)

自分の職種が行えること  
を明確にして伝える  
(理学療法士)

小さな変化に気づき記録、  
報告をその都度する  
(介護福祉士)

本人、家族の意向を受け止めて、  
多職種が共通認識や理解が持てる  
ようにしている(介護支援専門員)

施設外の職種の方と  
関わる機会が少ない  
ので、こういう研修  
にもっと参加して話  
を聞きたいと思いま  
した(看護師)

◎松阪地域の地域包括ケア推進のため、これから  
もご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局：松阪市健康福祉部高齢者支援課

☎ 53-4099 FAX 26-4035